

◆その後の動向

勉強するでもなし、仕事をするでもなし、職が無いのではなく、あっても働こうとせず、経済的な部分は親や結婚相手に頼りきり、こういった“頼巢族”が中国でも増え続けています。2004年の調査では、南京市で158名の修士が政府の失業保険を受けたとのこと。中国の大学生の失業率は10%を超え、その4分の1が自ら失業を「選択」したのだ、という話も伝わっています。

働かなくても食べていける、というのは、それだけ経済が発展して、親の甲斐性がパワーアップしたともいえますが、自立が遅れているというのは憂慮すべきことですし、自立してはいるが、華やかな都会でなくては働きたくない、という選り好み現象も無視できません。

一人っ子ゆえの親の過大な期待で押しつぶされ、精神障害を惹き起こしている例も少なくありません。最近では、小学校から大学に至るまで、カウンセラーを常駐させ、学生・生徒の悩み事解決に当たらせる学校が増えています。深圳市では、小中学生用悩み事相談ホットラインが開設されましたし、上海師範大学では心理カウンセリングセンターが新生に心理テストを実施し、個々の学生のカルテを整備しています。勿論、閲覧できるのはカウンセラーだけに限られているそうです。